



開物成務

令和6年1月24日(水)発行

校長 津田 千由美

新たな一歩

新しい年が幕を開けました。期待で胸膨らむところですが、悲しい災害や事故が相次ぎ、心が痛みます。通常の生活が送れることに感謝するとともに、辛い思いをしている方々に心をよせることから、3学期が始まりました。

始業式の話の一部を紹介します。

あなたは、この絵が何に見えますか？

「おねえさんの横顔」
「おばあさんの横顔」
など、人によって見え方が違うと思います。



次に、皆さんは、エスカレーターに乗る時、どちら側に立ちますか？

「左側」

と答える人が多いと思いますが、不思議なことに関西地方に行くと、ほとんどの人が右側に立ちます。私たちが「ふつう」とか「当たり前」に思っていることが、実は、住んでいる場所や考え方、見方によって異なるのです。

「みんなちがうんだよ」という話をもう一つします。人によって学び方には違いがあるということです。「友達と話し合いながら学ぶ」ことが好きな人や、「一人で静かに学ぶ」ことが好きな人がいます。

また、人によっては、

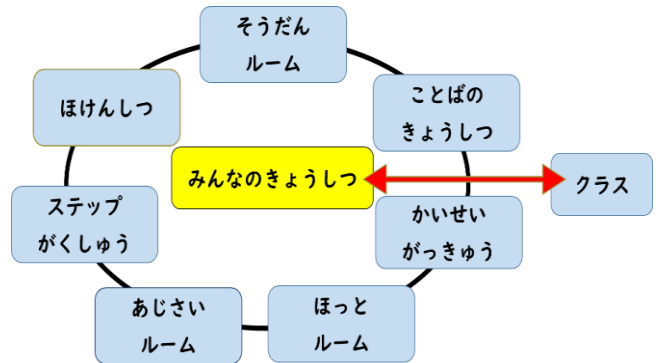
- 「繰り返したくさん書くことでわかる」
- 「書くのは苦手だけれど、聞くことでわかる」
- 「聞くのは苦手だけれど、見ることでわかる」

こんなふうに、学び方は人それぞれ自分に合う方法があるということです。

開成小学校では、できるだけ自分に合った方法で学習できるように、いろいろな場所を準備しています。

9月から「ほっとルーム」という新たな教室をつくりました。ほっとルームでは大切にしていることが1つあります。それは「自分で選び、自分で決めること」です。

この図にあるように、これらの教室を全部まとめて「みんなの教室」と呼ぶことにします。



みんなの教室は、自分に合った方法で学ぶことができる場所です。名前のおり「みんな」ですから、必要に応じてだれでも利用することができます。

開成小学校の先生たちは、これからも一人ひとりの学びを応援します。ですから、みなさんも一生懸命に学んで、さらに成長してください。

3学期になり、委員会活動や清掃活動、異学年交流など5年生がリーダーとなる取組も始まりました。

1月23日(火)に行われた幼保小交流会では、来年度入学予定の子どもたちに、5年生が学校を案内しました。

「かわいい」

と言いながら小さな手を握り、図書室や保健室などをめぐり、優しく声をかける姿が大変ほほえましく感じられました。

3月には、全校で6年生の卒業をお祝いする「ありがとう集会」を行います。この集会の企画・運営も5年生が担うことになり、子どもたち一人ひとりの役割やゴールが明確になりました。

6年生の後ろ姿から学んだ多くのことを引継ぎ、「新たな開成小学校を創っていこう」という意気込みが全校に広がりつつあります。



かけあし記録会（持久走記録会）

コロナ禍で休止していたかけ足記録会を、今年度から再開することになりました。速さや距離を人と競うのではなく、自分自身の「動きを持続する能力を高める」ことをねらいとして、1月から体育の時間に取り組んでいます。

練習では、苦手な子への配慮として、リズムに合わせて走ることができるようBGMを流しています。応援する仲間達と一緒に盛り上がる効果もあり、最後まで力を抜かず走り切るすてきな姿が見られます。

今週1月22日からは、各学年で順次記録会が行われます。記録賞を持ち帰った際には、ぜひお子様のがんばりにあたたかい声かけをお願いします。

○自分のペースを考えながら、長い距離を走ることにより、かけ足をする楽しさを味わい、持久力の向上を図ります。

○日頃の練習の成果を發揮し合い、互いに認め合いながら、学級を越えた交流をめざします。

150周年イヤー最後の一週間



【全校によるちぎり絵】

1月28日（日）、開成小学校は151歳の誕生日を迎えます。1年間かけて子どもたちと一緒に創りあげてきた「開成小学校150周年イヤー」もいよいよ終盤…1月26日（金）には、PTA主催の家庭教育学級「サイエンスマジックショー」が開催され、給食でもサプライズを企画しています。近々、町からの記念品として、6年生児童作成の150周年マスコットキャラクター「カイ・セイ」ちゃんが描かれたクリアファイルが全児童に贈呈されます。また、関係機関へは150周年記念誌も発行する運びとなりました。

週明け1月29日（月）には、毎年恒例の「開成小学校の鐘をならそう」イベントを行います。各学年の代表者（抽選により決定）が、授業開始の合図に昔の鐘をならす企画です。開校当時チャイムとして使用されていた鐘を使い、子どもたちみんなで開成小学校の151歳をお祝いします。

たくさんの方々の想いが凝縮した一週間になりそうです。今後も益々皆様に愛される学校づくりに励んでまいります。

先週、校長室に一人の男の子が訪ねてきました。手には、漫画本「君たちはどう生きるか」（吉野源三郎著）を携えていました。

「始業式に校長先生が言っていた『ふつうってないんだよ』という話が、この本を読んでよくわかりました。校長先生もぜひ読んでみてください」と。自分の想いを綴った手紙も一緒に添えられていました。

私が最初にこの本に出合ったのは、小学生高学年の頃でした。道徳の時間に、担任の先生が紹介してくれました。その頃はもちろん漫画ではありません。とても難しく感じましたが、「コペルくん」という名前だけは鮮明に覚えていました。次の出合いは漫画になった時です。購入してすぐに読み返しました。おじさんの言葉が胸にしみました。そして、今回は3度目です。

意識したわけではありませんが、3学期始業式の私の話に共通している箇所がいくつかあり、驚きました。この事に気づいた男の子の感性に脱帽です。

「ものの見方」についてコペル君に説諭するおじさんの言葉に、こんな一節があります。

「自分ばかりを中心にして物事を判断してゆくと、世の中の本当のこともついに知ることができない」。

いろいろな角度から物事をみつめ直すこと、自分とは異なる考え方や見方も受け入れること…この積み重ねが、実は住みやすい世の中をつくり、自分の幸せ、みんなの幸せにつながるのではないのでしょうか。

おじさんがコペル君に伝えたように、私も子どもたちに伝えていきたいことです。そのために、まずは自分の頭を柔らかく…今年の私の抱負です。

今年もどうぞよろしくお願いします。



わたしのひとりごと